

東日本大震災救援ニュース

No.20 2011年4月6日



急がれる被災者への生活支援策

避難所生活の長期化で疾病の悪化が進行

3月29日から4月4日まで、宮城県の坂総合病院と大規模避難所・多賀城文化センターに薬剤師支援に入った佐野旦社長（薬剤師）からの報告（要旨）をお伝えします。

<ヘルス企画・佐野社長(薬剤師)の活動報告>

東京の民医連事務所を3月29日の午前9時に出発、午後3時過ぎに坂総合病院に到着。坂総合病院は電気・水道は復旧しており日常診療も始まっています。支援は約120名。

3月30日は晴れ、暖かい。約1,000名が避難している多賀城文化センターで支援活動。9時から16時まで約50名の患者の診察、処方は約40名です。風邪が主な症状ですが、血圧が高い、眠れないなどの訴えも多い。医療支援要員は兵庫などからの医師6名、看護師4名、薬剤師1名、事務5名。緊急で入院を必要とする患者1名を坂総合病院に搬送。避難所の長期化とともに、老人、子供などの疾病の悪化が心配される。18時から20時過ぎまで夜間の診療を実施。

避難所から帰るとすぐ呼び出しがあり、「31日から薬品・物品の管理をお願いしたい」とのこと。

31日は雨、寒くなった。全国から送られた支援薬剤で避難所の医療を実施。薬剤は必要最低限のものに。避難所へは6チームが出発。避難所ごとに薬剤の注文が「ビタミン剤」「胃粘膜保護材」「抗生剤（マクロライド系）」「保湿剤」「抗真菌剤」などの要請があるが、在庫薬を確認し対応を心がけた。しかし、薬剤がなく、現地の薬剤師と確認しながらの対応で何とかしのぎました。

4月1日（金）晴れ、寒くなっている。全国からいろいろな薬剤の支援があり、タイムリーな薬剤もあり活用。避難所の診療方針が明確でないため、支援医師により薬のオーダーがいろいろ。避難所も全

国の支援のみ、薬品管理も支援では対応が困難。長期的な支援の確認と、現地の医師・看護師・薬剤師などがもっと地域や避難所に入り被災の実態を早急につかまないといけない。日業診療を確保するのが困難なため仕方ない面はあるが、再検討が必要。

2日（土）晴れ、暖かいが風が強い。朝6時から津波の被害が大きかった七ヶ浜を訪問。津波のものすごさがわかり、何も残っていない。コンテナが海岸に打ち上げられ船が屋根の上に乗ったままとかコンクリートの電柱が折れ曲がり倒れるなどの想像を絶する光景です。

3日（日）晴れ、少し寒い。不眠不休で頑張っていた現地の薬剤師も休みが取れ、少しでも元気になってほしいと思った。午後からは塩釜港の被災者の支援に出かけました、1階は津波で使い物にならず硝子の割れた2階で老夫婦が住まれており、掃除や物品運び入れ、運び出しなどをおこなった。早急な支援がないと、生きていけなくなるのではないかと心配になった。4日（月）、気がついたことなどを責任者に伝え、とりあえず終了です。



みやぎ県南医療生協のクリニック、デイサービスなどの建物は無事 海岸の街は壊滅状態 避難所支援に全力

第4次医療支援隊からの報告

支援に入ったみやぎ県南医療生協のクリニック、デイサービス施設は無事で、直接勤務している職員も全員無事です。周辺の商店も通常営業に戻っています。

本日の支援としては、壊滅状態の原発から60kmの山元町の避難所・体育館に行き、支援物資の仕分け作業、移動などを行いました。山元町は物資の到着が遅れ、2、3日前からやっと届きだした状態で、駐屯地が近いことから自衛隊が支援に入っているものの、まだ被災者に暖かいものが十分に提供できていない状態です。

夕方からは、事業所に戻り、デイが終わった後のお風呂で山元町避難所より高齢者の介助が必要な方の入浴を受け入れております。震災後、お風呂に初めて入られる方も多いです。私たちが帰った後の支援は、まだ決まっていません。支援は引き続き必要で、全日本民医連に要請を入れているとのこと。

県内の課題としては、支援物資は届いているものの、仕分けが追いついておらず必要な方に届きにくい状況です。現地の職員は通常業務＋支援者の受け入れ調整、お世話で疲労が溜まっています。事業所の方の手をわずらわせないような支援者を受け入れるコーディネーターが必要だと思われます。

県南で不足しているものは、現在、原付バイク1台くらいです。→医療福祉生協連が手配しました。

今後の支援物資としては、現地に必要なものを聞き、必要なだけわかりやすく、仕分けしやすい状態で送ることだと思います。衣類は1箱に男女で分け、1種類ずつ入れて下さい。

明日は、また、今日、入浴された方の洗濯した衣類を各、避難所に持って行き、物資の仕分け作業をした後、また、夕方から入浴介助を行う予定です。（吉田介護福祉士からの報告）

夕方からの医療支援が避難所では必要

坂総合病院周辺の避難所支援に入っている村上師長からのレポート

支援活動2日目の報告をします。こちらの生活にも慣れてきました。今日も引き続き昨日と同じ塩釜公民館の避難所支援でした。日中は家の片付けや役所へ行く用事などで人が減り、夕方から帰って来られるため、医療支援時間の変更を提案させて頂きました。

専門家による心のケア、今後の住まいや仕事に関する対策、援助が早急に必要だと感じました。避難所によっては、感染性腸炎とインフルエンザが流行しているところもあります。

長町病院のカルテ倉庫が津波で流されていますが、不明となっているカルテ探しのため、急遽、有志8人を募って出かけ、夕方からの報告では、カルテが泥に埋まっている状態だったということです。回収するかどうかは行政の指示によるという対策本部の報告もありました。

東日本大震災医療支援報告会

震災直後の3月12日から、医療支援先遣隊が出発。今日まで、第4次の医療支援を継続しています。被災地の現状をリアルに知り、今後も長期的な視野に立った支援活動が求められています。報告会を下記のとおり開催します。誘い合わせてご参加ください。

と き 4月14日（木）午後6時から

ところ 組合員ひろば（あおぞら会館1階）

参加対象は、職員と組合員さん、関心のある方々。広く参加を呼びかけます。